

第45回総合治水ワーキングチーム会議の協議結果

日時 平成18年7月4日(火)16:30~22:00
場所 西宮市男女共同参画センター 411号室
出席者 (委員)松本(誠)、奥西、川谷、畑、村岡、岡田、加藤、佐々木、田村、中川、
浅見、伊藤、草薙、酒井、谷田、土谷、山仲
(河川管理者)田中、森田、渡邊、前田、西村、合田
(河川整備課)高本
(神戸市)水口、藤井、金藤
(事務局)林、長尾、植田、木本

内容(協議結果)

1 総合治水対策の検討

(1) 千苅ダムの治水活用に関する神戸市のヒアリング

千苅ダムの治水活用の検討にあたって、緊急提言書に基づき神戸市にヒアリングを行った結果、出席した神戸市水道事業者からダムの運用状況や水道施設としての利用状況等についての回答を得て、新たに下記のことを確認した。また、この日のヒアリングでは市外地である羽束川流域から取水している神戸市として、武庫川の治水、利水、環境にどのように貢献するかどうかについては「水道事業者としては回答できない」とし、具体的な治水活用の方策についての見解は「示されている内容がよくわからない」として聴取できなかった。

千苅ダムは国の登録有形文化財に登録されている。将来は重要有形文化財に指定される可能性がある。

県の指導に対し今回は、洪水期(6月~10月)は越流頂まで常時満水位を下げるよう早期改善に向けて県と協議しながらダムの操作規定の作成を進めている。

上記の改善をとることによって、非常用洪水吐きの放流能力を $786\text{ m}^3/\text{s}$ (ダム主堰堤の洪水吐き断面を全て利用した場合)確保でき、神戸市はダム堰堤の安全性は確保できると考えている。

現況放水トンネルは岩盤の中に掘り抜かれており、強度的には問題ない。

神戸市としては、千苅ダムを耐震補強する必要はないと考えている。

神戸市のむこう10箇年の(平成27年を目標とする)水需要予測では、推定人口は156万人(神戸2010ビジョン)で、現状153万人から10年間で人口はやや増えるが、一人当たりの給水計画の原単位が減るので、水道需要は横ばいを想定している。

神戸市は、下記のことについて改めて回答する。

- 1) 登録有形文化財に登録された時期
- 2) 放流トンネルの最大放流能力
- 3) 下流の農業用水確保についての文書
- 4) 下流の農業用水を補給するためのバルブの能力及び放流実績
- 5) 上水道と農業用水補給用のそれぞれの貯水容量の内訳の有無
- 6) 下流のかんばつ助成金の有無
- 7) 2006年春に見直した水道計画の中で、家庭用水、都市活動用水、製造用水等の区分にもとづく原単位の比較数値

(2) 千苅ダムの検討

千苅ダムの治水活用について協議した結果、下記のことを確認し、次回流域委員会(7月10日開催予定)に報告する。

A案とB案について堤体補修補強及び非常用洪水吐き新設を行うかどうかの違いがあるのは、治水活用の可否以前に現在の河川施設等構造令ができる前に建設された千

苅ダムについて、一部基準に適合しない既存不適格部分を放置するのかどうかという河川管理者の判断と責任をどのように考えるかという問題がある。

B-2 案については、B-2案が構造上物理的に可能であるということが解明されたことと、神戸市が今後は洪水期にゲートを下げることとなり、ゲートを上げて治水容量に活用することが非現実的であることから、検討対象からはずす。

B-3案については、将来の選択肢としては置いておくが、整備計画に位置づけることは困難である。

2 その他

(1) 次回以降の会議の協議事項

総合治水対策

(2) 今後の日程（開催日時）

第46回 7月13日（木）14：00～

第47回 7月21日（金）13：30～

第48回 7月28日（金）15：00～

第49回 8月4日（金）13：30～

当日配付資料

資料1 千苅ダムの治水活用についての神戸市ヒアリング

資料2 千苅ダムの治水活用に関する検討状況

資料3-1 粗度係数について（川谷委員）

資料3-2 奥西委員意見へのコメント（川谷委員）

資料4 千苅ダムの治水活用について（土谷委員）